１. 大正区まちづくりビジョンの背景と位置づけ

大正区では、めざすべき将来像や施策展開の方向性を明らかにする「大正区将来ビジョン2029」を令和８年４月に策定しました。

「大正区まちづくりビジョン」は「大正区将来ビジョン2029」を補完し、長期的（10年程度）なまちの方向性を示すものとして策定します。

区民・事業者等と一体となってエリア価値向上と魅力創出を進めるため、地域資源を活かした「エリアリノベーション」を基本的な進め方として取り組みを積み重ねていきます。

大正区将来ビジョン 2029
2026~2029 年度・施策展開の方向性

↓ 別冊として策定

大正区まちづくりビジョン
長期的（10 年程度）なまちの方向性



【大正区の３つのエリア】

まちづくりビジョンでは、次の考え方から大正区を３つのエリア（北部・中南部・鶴町）に分け、それぞれの特徴や魅力を把握し、エリアごとのこれからを考えます。

～エリア分けの考え方～

地域資源の特徴の違いによるエリア分け

◎北部エリア
大正駅、TUGBOAT_TAISHOを中心とした、にぎわい・回遊、交流のポテンシャルを有するエリア

◎中南部エリア
ものづくりの集積と商い・暮らしが近接しており、ものづくりと商いの相乗効果の創出が期待できるエリア

◎鶴町エリア
海と空を感じることができる開放的なロケーションに加え、遊休市有地等の活用も含めた将来の展開余地が大きいエリア

エリアごとの特徴

	北部エリア	中南部エリア	鶴町エリア
特徴	◎唯一の鉄道駅（大正駅）を擁する当区の玄関口 ◎他エリアに比べ、比較的人口が安定 ◎宿泊・商業施設や生活サービスの集積 ◎他エリアに比べ高い地価上昇率 ◎駅周辺の環境改善（ゴミ・落書き等）の必要性 ◎商店街の後継者・空き店舗問題 ◎水辺空間を活用した「TUGBOAT_TAISHO」の存在 ◎「京セラドーム」による集客力	◎他エリアに比べ、福祉・医療・行政機能が集積 ◎人口減少と高齢化 ◎特色としての沖縄文化や平尾商店街といった地域コミュニティの存在 ◎空き家・空き店舗の増加 ◎ものづくり企業が多く集積 ◎様々なスポーツ施設の存在	◎他エリアに比べ、顕著な少子高齢化 ◎店舗廃業による地域商業の衰退 ◎エリアが一体となった地域コミュニティの存在 ◎住宅開発による新住民流入 ◎新旧住民間のコミュニケーション機会の不足 ◎水辺が身近にある環境 ◎広大な遊休市有地の存在

課題

これまで長い間、人口が増え続ける時代を前提に、より多くの人が集まり、より大きく成長し、より効率よく回すことが良いとされる社会の仕組みや暮らし方、働き方がつくられてきました。

しかし、人口が減り、地域のコミュニティが希薄化していく今、そのままの仕組みでは、暮らしや商いが続きにくくなります。

拡大・成長・効率を重視する「大きな経済圏」に引っ張られ、地域の小さなお店や仕事、顔の見えるつながり、いろいろな働き方や生き方を支える「小さな経済圏」がなくなりつつあります。

その結果、地域でお金や仕事が回りにくくなり、商いが減り、まちの元気が薄れていくことが課題です。

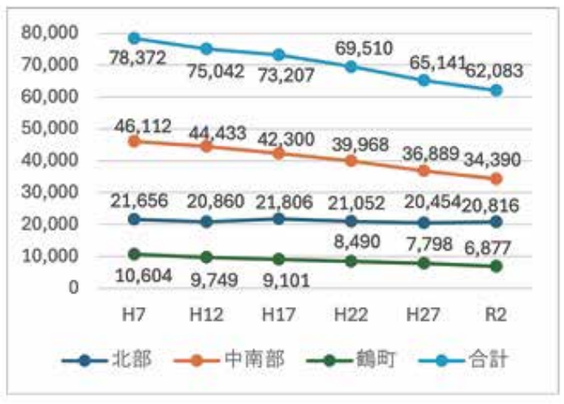
めざす方向性

地域の暮らしと商いが成り立つ仕組みへと組み替えていくことが必要であり、大きな成長を追いかけるだけではなく、エリアリノベーションという手法を取り入れ、多様な商いや生き方を大切にできるまちをめざします。

２. 大正区の現状と課題

現状

【人口】



【産業】

事業所数は減少している一方、従業者数は増加
業種別では製造業が429事業所(14.3%)と大阪市平均(10%未満)を上回る「ものづくり」産業の集積が特徴

【地価】

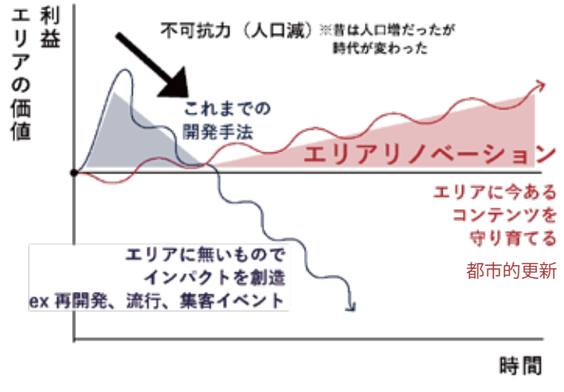
路線価は北部・中南部・鶴町のすべてのエリアで上昇傾向
北部の上昇幅は他エリアや大阪府、大阪市と比べても顕著

３. 課題解決のための方策

エリアリノベーション

エリアリノベーションとは、大規模開発ではなく、当区にある歴史や文化、人々の熱量といった資源を丁寧に読み解き、漢方薬のようにじわじわと価値を高めていく実践的なアプローチです。

自らリスクを取って動き出す「少数派」の挑戦を大切にし、行政はその伴走者として周りの共感を広げていきます。エリアの魅力を磨いてファンを増やし、地域にお金と人が集まる状況をつくることで、エリアの価値を高める都市の更新を可能にする手法です。



４. まちづくりビジョン策定の流れ

①「まちづくりビジョンの基本的な考え方＋エリアの特徴をキーワード化」

・大正区全体及び各エリアの特徴を表現する「キーワード」を整理し、守り育てるべき「らしさ」を把握します。これは大正区全体及び各エリアの将来イメージを分かりやすく伝え、具体的にどんなことが大切なのかを示すことになります。

②「エリアのファン設定」

・大正区及び各エリアを好きになってくれて、自分の言葉で多くの人に広めてくれる「未来のお客さん（エリアのファン）」を設定します。このことで「誰に」価値を届けるのかが明確になります。

③「未来の方向性（ポジショニング）設定」

・同じ大正区内や大阪市の他エリアと比較し、各エリアのまちづくりの方向性を示す「ポジショニングマップ」を作成します。このマップにより、各エリアが他のエリアとは違った独自のポジションを取り、その方向性に向けたまちづくりを進めることができます。

④「まちづくりのクロス SWOT 分析＋エリアを一言で表現するキャッチフレーズ＋全体像共有」

・まちづくりに投入できるリソース（ヒト・モノ・カネ・ジカン）は限られていることから、事業の優先順位を検討するとともに、エリアを一言で表現します。

・まちづくりビジョンの骨子となる「誰に」・「何を」・「どうやって」を可視化し、取り組むべきことの方針を定めます。

骨子案では、①「まちづくりビジョンの基本的な考え方＋エリアの特徴をキーワード化」について検討し、②「エリアのファン設定」③「未来の方向性（ポジショニング）設定」④「まちづくりのクロス SWOT 分析＋エリアのキャッチフレーズ＋全体像」は、今後皆さまと一緒に考え作成していきます。

キーワード化にあたっての参考資料（区政会議でのご意見）

大正区の魅力とは？

ちょうどいい距離で誰もが居場所を持てるまち

◎義理人情・思いやりが根づき、静かだが“熱い”人が多い
◎子どもに温かく、地域で子育てを支える文化
◎高齢者・障がい者・外国人・転入者も受け入れられやすい
◎「やりたい人」と「受け入れる人」のマッチングが起きやすい

安心が日常にある、都心近くの穏やかなまち

◎治安が良く、住むとイメージが変わる“実感の安心”
◎防災意識が高く、地域の共助とも相性が良い
◎医療・救急など生活の安心基盤がある
◎坂が少なく移動しやすい／都心アクセスも良く便利
◎公園やスポーツ施設が充実

空と水辺と昭和が、毎日にあるまち

◎橋からの景色、空の広さ、朝日・夕焼け、汽笛など“体感できる風景”
◎海や川、渡船など水辺の移動文化と景観が残る
◎昭和の街並み・下町らしさ＝「都会の中のいなか」
◎産業の発祥、第九につながる歴史、沖縄文化などの歴史資源や地域イベントが多い

つくる力で、挑戦が回り、また帰ってこられるまち

◎ものづくりのプロと産業基盤／企業と区民の距離が近い
◎若い意見ウェルカム、実験・チャレンジ・再挑戦を受け入れやすい
◎都心アクセスの良さ、ドーム近接など“外とつながる強み”
◎出ても戻ってくる人が多い

５. 各エリアの特徴とキーワード（検討中）

区政会議でのご意見や、地域で活動されている方・区民の方へのヒアリングなどでいただいたご意見を、大正区やそれぞれのエリアの魅力から、各エリアの特徴及び「守り育てるキーワード」を整理します。

北部エリアの特徴とキーワード

「TUGBOAT_TAISHO」を中心とした水辺と都市の交差を感じられる「尻無川付近」は、橋と水辺による美しい景観を擁しています。

また、「大正駅」は区内唯一の鉄道駅であり当区の玄関口を担っており、周囲には小さな商いが集積することで活気が生まれ、夜には魅力的で多様な店々が回遊を楽しめる飲食街として多くの人々が訪れています。

エリアにある「泉尾商店街や三泉商店街」には、昔ながらの商いが生み出すレトロ雰囲気と新しい商いの挑戦が混在し独特の情緒を感じることができます。

1．水辺と都市が交差する賑わい拠点
2．回遊を楽しめる飲食街
3．昭和レトロと新しい商いの混在
4．橋と川がつくる水辺景観
5．小さな挑戦が集まる更新エリア
6．大正区の玄関口となる交流拠点

中南部エリアの特徴とキーワード

ものづくり企業の技術と多様な暮らしが密接に溶け合ったエリアです。

平尾地域や小林地域を中心に根づく「沖縄文化」、平尾地域を中心とした地域商業、「千島公園周辺の公共拠点」や多様なスポーツ施設が人々の日常を支えています。

また、周囲にはものづくり企業が立地するとともに、川との暮らしを象徴する「渡船」が、今も通勤・通学の足として活躍しています。

産業の歴史、独自の文化と商い、そして水辺の風情が重なり合うエリアです。

1．工場と暮らしが共存する風景
2．暮らしに根づく沖縄文化
3．区民の日常を支える公共拠点
4．ものづくりの挑戦が続く南の現場
5．暮らしを豊かにする地域イベント
6．日常で利用される渡船の風景

鶴町エリアの特徴とキーワード

鶴町エリアは、「コンパクトで顔の見える関係性」が今も根付く地域性と、「海と空の開放感」や「橋と夕景が象徴する臨海風景」という恵まれたロケーションを併せ持つエリアです。

加えて、「臨海部に立地する大型商業施設」がありその前には大きな余白として遊休市有地が存在しています。

海と直接的に触れ合い、交通の利便性の高い暮らしが実現できるエリアです。

1．コンパクトで顔の見える関係性
2．海と空の開放感
3．臨海部に立地する大型商業拠点
4．橋と夕景が象徴する臨海風景
5．広大な遊休市有地